

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

# さっぽろ 市議団ニュース

<第1回定例会>

2018年3月23日

No. 188

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 就学援助の拡充を！入学準備金の入学前支給を小学生にも——「手続きや支給方法を検討している」

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は14日、予算特別委員会で就学援助について質問しました。

太田議員は、「全国で生活保護以下の収入で暮らす子育て世帯が倍増していると報じられるなど、子どもの貧困の深刻化は明らか」「就学援助制度の拡充が求められている」と強調しました。そして、年度途中の申請も可能だが「実際の申請はどの程度か」、札幌市の生活保護の捕捉率（保護基準以下の世帯のなかで実際の受給世帯割合）はわずか3.82%しかないとのべ、「就学援助の受給率は15.28%となっているが、申請を促すために年度途中でも制度の周知を行うべき」とたどしました。

引地学校教育部長は、「就学援助を申請した児童生徒数は22,043人（2016年度）で、このうち年度途中の申請は1,668人、約7.6%」「年度途中の申請については時期や方法など効果的な周知のあり方を検討したい」とのべました。

共産党がくり返し求め実現した中学生の入学準備金の入学前支給について、太田議員は「大変、喜ばれている。小学生にも実施すべき」と求め、また、「子どもの貧困対策計画」策定に向けた実態調査で、家計の状況が「ぎりぎり」と「赤字」を合わせると62.6%にもなると指摘し、「生活保護基準の1.1倍としている就学援助の基準を拡大すべき」「社会保険料などを控除した後の『所得』の1.1倍にすることや、クラブ活動費やPTA会費など費目を追加すべき」とたどしました。

引地部長は、小学校入学前の準備金支給について「現在、申請の手続きや支給方法について検討をすすめている」「就学援助の認定基準や支給費目については就学援助審議会の答申を踏まえ検討していきたい」とのべました。

## 高齢者や障がい者などの安全確保を——地下鉄ラッシュ時の混雑緩和、配置人員ふやせ！

田中啓介議員が質問

日本共産党の田中啓介議員は19日、予算特別委員会で地下鉄混雑時の利用者の安全確保について質問しました。

田中議員は、地下鉄利用者の推移と、特に混雑が激しい大通駅と札幌駅について、「駅員などの配置はどのようにしているのか、どのような混雑緩和対策を行っているのか」とたどしました。

橋本高速電車部長は、利用者は「2011年度実績は1日平均556,610人で2016年度は1日平均619,945人と増加し、乗降人員が多いのは札幌駅、大通駅、麻生駅」「朝夕のラッシュ時や通学時には職員を配置し、通路幅が狭い大通駅では誘導を行う係り員を配置している」とのべました。

田中議員は、高齢者や障がい者の社会参加がすすみ、通勤時間のラッシュ時に杖をついて歩く方や高齢者、ベビーカーを押すお母さんなど、厚労省が「移動制約者」と定義する方々も増え、大きなスーツケースを持った外国人観光客の利用も増加しているとのべ、「ラッシュ時における移動制約者の方々へはどのような対応を行っているのか」、また、駅員による直接の声かけが最も効果的である事例を示しながら「配置人員を増やすなど対策を検討すべき」とたどしました。

橋本部長は、「歩行が困難な方や介助の申し出を受けた場合は車椅子を使用するなど対応し、目の不自由な方には積極的に声かけし、そのための職員研修も行っている」「職員配置については混雑状況に応じた対応が重要と考えており他都市も参考に検討したい」とのべました。